



ALERT® FOR TRUSTEE

概要

取引相手との口座情報や決済情報 (SSI) の保管・更新・伝達の諸々の作業を標準化されたプロセスにおいて実施することは、フェイルトレードのリスクとオペレーションコストを低減するために重要になります。

実際に、フェイル取引のうち20-30パーセントは不正確な決済情報によるものと推測されており、それは金融機関が決済情報の管理を手作業にて行っていることが主な原因であると考えられています。

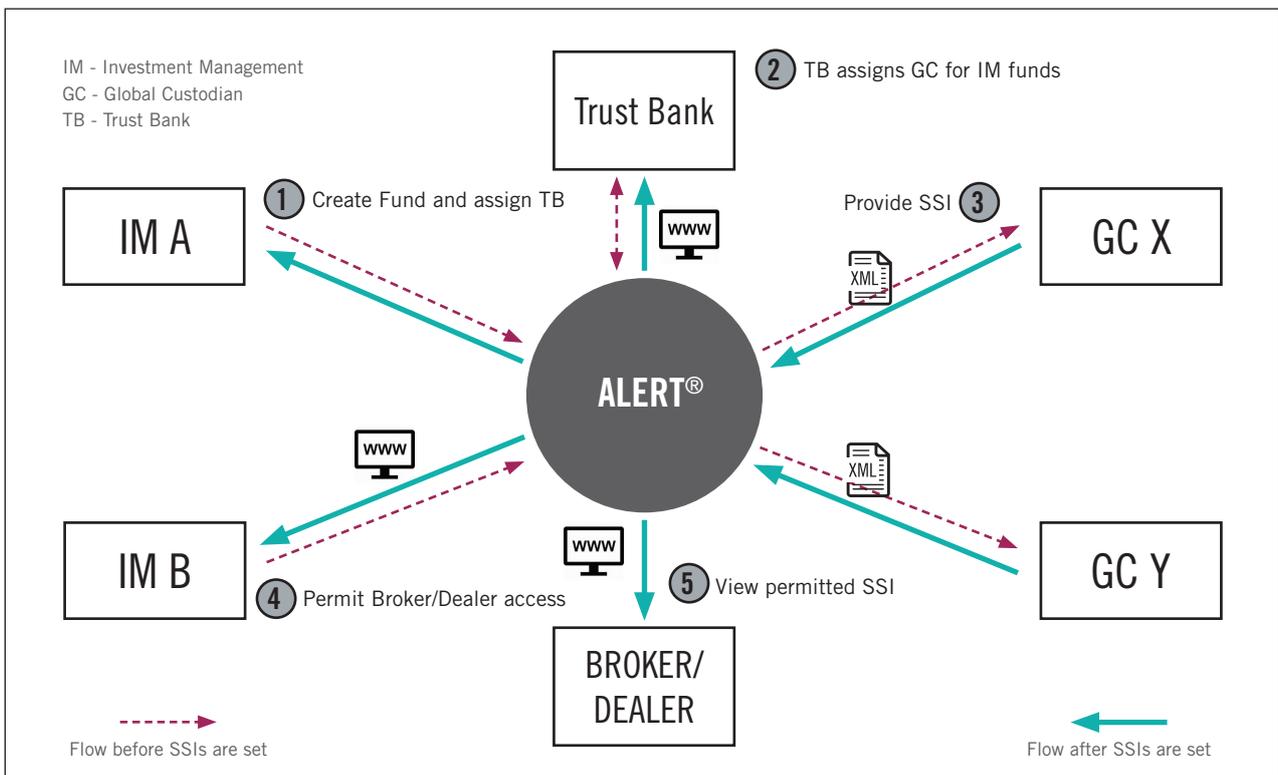
口座・決済情報管理と伝達のための業界最大のグローバルデータベースであるALERTは、資産運用会社、ヘッジファンド、ブローカー、ディーラー、信託銀行、プライムブローカー、カストディアンの中でコミュニティを形成し世界中の口座・決済情報を自動的に共有することによりフェイルトレードを大幅に低減いたします。

ALERT FOR TRUSTEEの仕組み

ALERT Global Custodian (GC Direct) のワークフローは ISO20022規格に準拠したメッセージによってカストディアン・プライムブローカーのデータベースとALERTサーバとの間で決済情報を連携することにより「ゴールデンコピー」の提供を可能にします。

既存のGC Directにおいて連携できなかった信託銀行名義のファンドの決済情報に関しては、ALERT for TrusteeでGC Direct経由で決済情報を信託銀行へ共有する機能が追加されました。これにより、GCダイレクトに参画しているカストディアンにおいては自動化されたプロセスにて信託銀行名義のファンドの決済情報の共有が可能となり、信託銀行においてはALERTのワークフローに参加し、決済情報の確認をALERT上で行って頂くことが可能となります。

HOW ALERT FOR TRUSTEE WORKS





メリット

- データ品質の向上 - データの提供元であるカストディアン/プライムブローから決済情報がシステム連携されるため、データの正確性が向上します。
- 決済情報の検証 - ALERTを通じて各マーケットルールとの照合や検証が行われることで、不完全、不正確な決済指示を取引相手へ送るリスクを低減いたします。
- マニュアル作業を減らすことでオペレーションコストを低減しセキュリティを向上 - Eメール経由で送信していた決済情報の共有を自動化することにより、時間の節約だけでなく、オペレーションコストの低減と、監査可能な記録に残すことにより、セキュリティも向上させます。
- 決済指示を将来の日付にて設定することが可能- このことにより既存ファンドの決済情報に変更される場面において、時間の節約とデータ管理における効率性の向上が実現できます。

主な特徴

- 資産運用会社からの決済情報リクエストが送られる際に信託銀行にメール通知が自動的に行われます。
- ALERTの画面上の「アラーツ」はカストディアンが決済情報の登録、更新、削除などを実施した際に自動的に表示されます。
- 資産運用会社と信託銀行向けに決済情報ステータスを確認できる統合的なダッシュボードを提供しております。
- CTM™と連携し決済情報、口座情報を自動的に更新します。

- ALERTの直感的で見やすいインターフェースにて業界標準ルールと比較し正しいデータであるか検証いたしません。ALERTは証券に関わる決済情報に関するメッセージはISO15022/MT54 X、キャッシュ/FXに関わる決済情報に関するメッセージはISO7775/MT304、MT210、MT202規格に準拠しています。
- 資産運用会社、証券会社やその先の顧客のLEI(取引主体識別コード)にも対応しています。

詳細・お問い合わせ

詳細に関しましては、ウェブサイト www.dtcc.com (英語) をご確認ください。DTCCJapan_SRM@dtcc.comまでご連絡をお願いいたします。